



崇城大と佐賀大の学生らの洋画が
並ぶ会場＝熊本市中央区

ヤームポイントと捉えて、色とりどりのプラスチックの粒で表現。一方、佐賀大4年の柄本薫さんは、なまめかしい表情の女性を写真的に描いた。

◇S-Y-O-U-I-G-A

展 14日、熊本市中央区の崇城大ギャラリーで始まった。26日まで。

崇城大芸術学部洋画コースと佐賀大芸術地域デザイン学部の合同企画で2回目。双方の在

学生や卒業生、教員計

69人が油彩などの洋画を各1点並べる。大学の画風の違いが感じられる。崇城大4年の糸数美里さんは、そばかすのある女性の顔を陰影をなくして描いた。

コンプレックスを抱きがちなそばかすを、チ